

アナウンサーから弁護士への転身

弁護士・元フジテレビアナウンサー  
菊間千乃さん

「あれがない、これがないではなく、  
あれもある、これもある。」

—— 早稲田大学法学部卒業後、フジテレビに入社され、アナウンサーになられました。アナウンサーを目指されたきっかけは何ですか？

父が八王子実践高校の社会科の教諭をしており、女子バレーボール部を創設し、監督もしていました。私が生まれた頃に、史上初の三冠王を取る等、強豪校で有名でしたので、いつも試合を見に行くと、父

は新聞記者やテレビカメラに囲まれていました。その際、A記者の質問には詳細に回答をするのに、B記者の質問には必要最小限のことしか答えていない姿を見て、子供ながらに、「お父さん、えこひいきはダメだよ」って言ったんです。小学校3年生くらいの時です。すると父が、A記者はバレーボールの面白さを世の中にもっと伝えたいという情熱が

あって取材をしているから、自分もいろいろ教えてあげようと思うけれど、B記者は事前に調べてくればわかるようなことも調べてこず、仕事で割り振られたから取材に来ましたという感じで、そういう人に時間を割いて話してあげようとは思わない、といったようなことを言ったんです。父は昭和一桁生まれの「ザ・頑固おやじ」みたいな人で、無口なほう

あなたを一人にしない。私たちがいる。世話やき宣言！

大阪弁護士会 総合法律相談センター TEL 06-6364-1248



でしたので、その父を饒舌にしてみようA記者ってすごい方だなと思って。自分の心がけ次第で相手の心を開いて自分にしか聞きだせない言葉を引き出せるインタビュアーの仕事って面白そうだなと思ったのがきっかけです。フジテレビは春の高校バレーを放送していましたから、フジテレビに対しては小さい頃から親近感がありました。なので、小学校の卒業アルバムに、「将来の夢はフジテレビのアナウンサー」とテレビ局指定で書きまして、以後一回も浮気することなく初志貫徹しました(笑)。

—— アナウンサー時代に印象に残っ

ておられることは何でしょうか？

たくさんありますが、今の仕事に繋がるきっかけはオウム真理教の麻原被告の裁判の傍聴ですね。当時はテレビ局がバイト等を雇って傍聴券の抽選に臨んでいた時代。日比谷公園を埋め尽くすほどの人が傍聴券を求めて並びました。フジテレビが得られた傍聴券はそのうち片手で数えるほど。そのうちの1枚を、明日生放送を担当するアナウンサーだからという理由だけで頂き、傍聴させて頂きました。法学部出身なのに、何の勉強もしてこなかったし、裁判傍聴をしたこともなかったので、中で何が行われているのかを理解できず、

せっかく貴重な傍聴券をもらって見せて頂いたのに、満足の行くリポートができなかったんです。それがものすごい後悔として残りました。

こういう経験は後輩にはしてほしいなと思い、弁護士になってから、フジテレビと系列局の新人アナウンサーを刑事裁判の傍聴に連れて行くという研修をしています。刑事裁判の手の流れや用語の説明をして、今後報道や情報の分野で活躍するアナウンサーに裁判の基本的な部分は理解しておいてほしいなと思って続けています。

もう一つ、大きく印象に残っているのは、沖縄県読谷村の象の檻の取材です。東京で新聞を読み、各局の報道等も見、基本的な知識を入れて現場に向かったのですが、現場の温度は東京とは全く違うものでした。取材をしてみると、基地があるから生活ができていると基地の存在をありがたいと思う方も結構いらっちゃって。現場に行ってみないとわからないことがたくさんある、他人が集めてきた情報をそのまま鵜呑みにしてはダメ、できるだけ、自分の目で確かめ、自分で調べ、自分の言葉には責任を持つ、ということ肝に銘じさせられる取材でした。

—— フジテレビ入社10年後にロースクール(大宮法科大学院大学)に入学されました。法曹の道を目指されたきっかけは何だったのでしょうか？

漠然と、アナウンサーを10年やったら司法試験を受けようと思っていました。フジテレビは毎年「10年後の私」というレポートを全社員が人事に提出するのですが、1年目のレ



ポートで、「10年後は、司法試験を受けて弁護士資格を取ります」と書いていました。当時は、女性アナウンサーは結婚すると第1線から退くような時代で、30歳を過ぎてバリバリ働いている女性アナウンサーがほとんどいらっしゃらなかったんです。小さい頃からなりたかった職業ですから、そんな短い期間で終わってしまうのは嫌だなと思い、アナウンサー寿命を延ばすために、自分に付加価値を付ける必要があると入社時から思っていたんです。28歳くらいで結婚して30歳くらいで出産するだろうと勝手な未来予測を立てまして（笑）、産休中に司法試験予備校の通信講座で勉強を始めて、40歳くらいまでに合格したいなあ等と青写真を描いていました。そしたら、ちょうど私が入社して10年目でロースクールができてまして。夜間コースもあると。ちょうど午前中の生放送を担当していたこともあり、これは神様が、私にLSに通いなさいと言っているんだわ、と思って入学を決めました。

—— **ロースクールに入学されてどうでしたか?想像と違ったこととか、ご苦労されたことなどはありますか?**

ロースクールの勉強をしっかりとすれば、8割以上合格する、司法試験は医師の国家試験のように変わるのだ、と聞いて入学したのですが、実際はだいぶ違いましたよね。暗記はしなくて良くなる等とも言われましたが、最低限（しかもこの分量が多いこと!）の部分、暗記しなければ、そもそも問題が解けないです。暗記力は若い頃とそんなに変わらないと思うのですが、そのキー

ポイントは確実に衰えていると思いましたね。昨日覚えたはずなのに、翌日になると、全く記憶に残っていないということが日々繰り返され。久しぶりに、「ドラえもん暗記パンが欲しい!」と思いました（笑）

入学当初は、合格してもそのまま会社に残ろうと思っていました。ところが私が通っていた大宮LSは、「弁護士が弁護士を育てる」という理念のもとに設立されたLSで、教授陣のほとんどが弁護士だったんです。各先生が授業で、ご自分の経験をお話しされるのを聞いているうちに、自分も法律を単なる知識で終わりにするのではなく、武器として実際に戦ってみたいと思うようになりました。LSに通っているうちに、徐々に気持ちがこちらに傾いていって、最終的に退社をして勉強に専念することにしました。

—— **ロースクールでは憲法の授業が印象に残っているということですが**

はい。そうです。ロースクールは1年生の前期と後期で憲法を履修しました。地裁、高裁、最高裁と全ての判決書を読んだうえで授業に出席すること、とされていたので、とにかく読まなければいけない判決書の量に毎回圧倒されていました。ただ憲法判例って、原告が訴えるに至るストーリーがあって、それに応じる形で世の中を大きく変えるきっかけになる判断が示されますから、壮大なドキュメンタリー映画を観ているような感覚にかられましたね。ぐいぐい引き込まれ、判例の勉強がとても楽しかったことも事実です。

なかでも、私をこちらの世界に強烈に引き込んだのは西山事件です。

今回のシンポジウム<sup>※1</sup>でもお話をしましたが、西山事件の最高裁の判決書に納得がなかったのです。一部女性蔑視のような表現があって、その違和感を解消したくて、いろいろ解説等も読んだのですが、納得のいくものはありませんでした。そこから、最高裁の言っていることが絶対ではないのだと思いましたし、裁判官だって1人の人間で、その人の人生観が判決内容に表れるのだと思ったら、なんだか裁判がとても血の通ったもののように思えてきて、法律の勉強がより楽しくなっていきました。

—— **2010年に司法試験に合格されました。修習時代に楽しかったこと、辛かったことなどありますか?**

修習時代は楽しかったですよ。一回り年下が同期の大半を占めていたので、クラスメイトからは「姐さん」とか「アニキ」って呼ばれてました（笑）。ただ、私のクラスはなぜかオーバー30歳の女性も多かったもので、上から数えて7人までで「神セブン」。皆社会人経験があった後に修習生になっているので、乗り越えてきた苦労や抱えている不安が同じで、勉強会をしたり、恋愛相談をしたり、女子校のノリでしたね。

修習内容としては、裁判所修習が一番楽しかったですし、勉強になりました。配属部の裁判官に恵まれたんでしょうね。たくさんの事件の記録を読み、裁判官の思考回路を教えて頂きました。

—— **2011年に弁護士登録されました**

※1 編集注:5月13日の憲法記念行事「あなたらしく。わたしらしく。」



た(第二東京弁護士会・新64期)。  
裁判官や検察官などは考えられ  
なかったのでしょうか?

年齢が高かったので、今から転勤  
生活は難しいなと思ひまして、最初  
から弁護士100%です。若くして法  
曹の世界に入っていたら、裁判官を  
選んでいたと思います。採用して頂  
けたらの話しですが(笑)。そのくら  
い、修習時代に出会った裁判官の方  
が皆様、人格的にももちろん能力的  
にも素晴らしい方ばかりでした。

—— 弁護士として主に取り扱ってお  
られる分野は何でしょうか?アナ  
ウンサーご出身ということで取り  
扱われる分野や業務にも何か特  
徴はあるのでしょうか?

古巣の顧問弁護士をしているの  
で、テレビ業界には相変わらず深く  
関わらせて頂いております。それ  
以外は、契約書チェックもDDもや  
りますし、法廷にもしょっちゅう立  
ってますし。普通の企業法務の事  
務所で働いている先生方と同じだ  
と思いますよ。

—— 法曹を目指す人が減っています。  
この現状をどのようにお考えでし  
ょうか?また、増加策について何か  
ご意見があればお願いします。

悪い情報ばかり蔓延してますもん  
ね。増加させるには、実際に弁護士  
として活動している私たちが、いか  
に弁護士が楽しいやりのある仕  
事で、もちろん経済的にも、それだ  
けの苦労をしても成る価値のある仕  
事だということを、アピールしてい  
く以外にないのではないのでしょうか。  
辛そうな弁護士を見ていたら、なり  
たいとは普通思わないですよ。

弁護士を必要としている人は、全

国に老若男女さまざまな方がいらっ  
しゃいます。だったら、弁護士の方  
にも、もっとバリエーションがあっ  
た方がいいと思うんです。弁護士の  
多様性。いろんなバックボーンを持  
った弁護士がいた方が、いいマッチ  
ングができますし。弁護士に対する  
満足度も上がっていく気がします。

そういう意味でも、私は大学卒業  
時にすぐではなく、ある程度社会人  
経験を積んでから、法律とは全く  
違う世界から参戦してくる社会人  
出身弁護士がもっと増えてほしいと  
思います。自分自身、その先駆け  
のようなところがありますので、自  
分が懸命にこの世界で頑張って、社  
会人誘致(笑)に微力ながら貢献  
したいと思います。

—— 今後取り組んでいきたいことや  
夢などがあれば教えていただけ  
ますか?

事務所の採用基準の一つに、end-  
less curiosityがあります。ボスの松  
尾先生は86歳ですけれど、未だにセ  
ミナーに参加したり海外出張に出か  
けたり、精力的に活動をなさってい  
て、頭が下がる思いです。私も、あ  
くなく好奇心、向上心を持ち続け、  
フットワークの軽い行動力のある弁

護士と言われるようにになりたいです。

—— 若手弁護士に何かメッセージ  
があればお願いします。

私もまだ若手だと思っていますが  
(笑)。周りを見渡せば、すごいな、  
自分なんて、と思うこともあるかも  
しれません。でもきっとみんな同じ  
ことを思っているはずですよ。あれが  
ない、これがないではなく、あれも  
ある、これもあると自分を肯定的に  
受け止める、自分が歩んできた道、  
選択してきた道に自信を持って、前  
に進む、これが大事だと思います。  
ただ、「言うは易し、行ふは難し」  
ですよ。私だって、壁にぶち当  
たるたびに、同僚の先生に愚痴を  
聞いてもらったり、慰めてもらっ  
たりしています。人は一人では生きて  
行けないんです。同期や同僚、先  
輩、後輩、みんなに頼っちゃって  
いいと思います。とにかく明るく楽し  
く前向きに。だって弁護士って本当  
に素晴らしい仕事だと思うので。頑  
張っていきましょう!

—— お忙しいところありがとうございます。

(Interviewers: 中森 亘、折田 啓  
Photo: 高廣 信之)

